

## 審査の結果の要旨

野本 まりの

本研究は HIV 感染者の 80%以上に対して無料の抗ウイルス薬治療がなされているカンボジア国において、HIV/AIDS 感染が世帯に及ぼしうる社会経済的影響を知るために、シアヌークビル県において HIV 感染者・感染世帯と非感染者・感染世帯のデータを面接調査法によって集め、分析・比較したものである。その結果、下記の結果を得た。

1. HIV 感染者は非感染者に比べ、健康状態が低く、就労状況も低調であり、世帯の収入・支出・財産・医療費・教育費も非感染世帯と比べ低かった。中でも HIV 感染世帯の収入の中央値は非感染世帯のそれと比べ 41%低かった。
2. HIV 感染世帯のうち、寡婦世帯の収入・支出は非寡婦世帯と比べ低かった。中でも寡婦世帯の収入の中央値は非寡婦世帯のそれと比べ 42%、非感染世帯に比べ 59%低かった。
3. HIV 感染世帯の世帯収入と統計学的に有意に関連ある要因は就労家族数と寡婦家族であった。また HIV 感染世帯の世帯支出と統計学的に有意に関連のある要因は教育費・財産・家族数・負債であった。

HIV 感染世帯では非感染世帯と比べて就労家族数が少なく、寡婦世帯数が多かった。そのため非感染世帯の収入との格差が大きくなったものと推測される。

支出項目の中では、世帯支出に占める医療費の割合が 2003 年には 17.3%であったのに対し、2008 年時の本研究においては 1.3%に低下していた。抗ウイルス薬治療の高い普及率の下では、医療費は世帯支出にとって重要な関連要因ではなくなっていた。しかしながら HIV 感染世帯の医療サービスのための交通費は非感染世帯に比べて有意に高かった。また感染世帯の教育費は非感染世帯に比べて低く、子どもの教育機会が減じるのではないかと懸念される。AIDS による家族の死のための葬式費用はいわば一過性の出費であるが、その額の支出に占める割合が大きいことから、死亡者がいた場合には大きな出費になるものと考えられる。

HIV 感染世帯のうち寡婦世帯では配偶者の死を経験しているため主な稼ぎ手を失ってい

る場合が多く、就労家族数も少ないことから、世帯収入・支出とも低くなっていたものと考えられる。

以上の結果より、カンボジアでは HIV 感染世帯の収入・支出は非感染世帯に比べ低く、中でも寡婦世帯の収入・支出はより低いことがわかった。

カンボジアにおいてこうした研究は少なく、本研究の結果は今後の HIV 感染者ならびに感染世帯への社会経済的援助プログラム作成において有益なエビデンスを提供しうるものであることから、学位の授与に値すると考えられる。